



樹人舎

【学校教育目標】背振を愛し、進んで学ぶ、たくましい子どもの育成
【小規模特認校】神埼市内のどこからでも通えます。
【コミュニティスクール】「地域とともにある学校」2年目（令和6年度～）

第17号

令和8年1月9日

神埼市立背振中学校

文責 校長 滌谷

<学校HP>



新しい年の始まりです。

新年あけましておめでとうございます。旧年中は保護者の皆様、地域の皆様には大変お世話になりました。日頃より、本校教育に関しましてご理解、ご協力いただきましてありがとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひします。

さて、3月には12名の3年生はそれぞれの進路に向かって本校を卒業ていきます。一人ひとりが夢や目標に近づけるように祈念しています。すでに年末に受験を終えた生徒もいますが、これから私立高校や県立高校の特色選抜の受験を控えている生徒は、体調に気をつけ、最後の追い込みを頑張ってほしいと思います。職員一同、応援しています。

③学期始業式にて

始業式では校長から、今年を「挑戦」する年にしてほしいと話をしました。お酒や飲料で有名なサントリーの創始者である鳥井信治郎氏（1879年～1962年）の部下に対する口癖である関西弁での「やってみなはれ」「やらな分かりまへんで」に関するお話を。

あるコラムに、現代人は失敗を恐れがちになっており、やる前から「無理です」「できません」というのが口癖になっているとありました。また、失敗して責任を問われることを恐れ、腰が引け、物事に消極的になりがちになっているとも書いてありました。これはある意味では、現代人は自分の力量をよくわきまえており、実現の可能性の低いことには時間をかけない、あえてリスクを冒さないという予測不能な現代を生き抜くための知恵の一つなのかもしれません。

しかし、当時、鳥井氏は部下の発案に対して「やってみなはれ」「やらな分かりまへんで」と声をかけ、部下のやる気を鼓舞し、挑戦を後押ししていたそうです。それに対して部下からも「見ててくれなはれ」という威勢のよい返事が返ってきたそうで、当時は会社が活気に満ち溢れていたそうです。この「見ててくれなはれ」という言葉はきっと背中を押してくれる鳥井氏へ「必ず結果を出すから見守っていてください」という社員の気持ちの表れだったのでしょう。我々、教師や指導者、保護者も鳥井氏のようにありたいものです。我々大人は、ともすると教え子や我が子に失敗をさせないように「危ないからやめとけ」とか「うまくいかない可能性が高いから、しない方がいいんじゃないかな？」などという声掛けをすることが多いように感じます。その結果、生徒（子ども）も挑戦することにためらいがちになっていると思われます。

我々大人が少し意識を変えて言葉かけを変えると、生徒（子ども）からも「見ててよ。成功させるから。」という返事が返ってくるかもしれません。生徒に挑戦する気持ちが少しでも芽生えるように私は声掛けの仕方を今一度、考えてみたいと思います。



始業式では左の写真のように生徒代表に3学期の目標や決意を述べてくれました。どの生徒も2学期の反省を踏まえ、学習面や生活面について3学期への熱い思いを語っていました。始業式に出席した生徒たちは皆元気そうで、久しぶりに会った級友や先輩・後輩と笑顔で会話を交わしていました。3学期のさらなる活躍に期待しています。

※31日（土）は立志式のため土曜学校（弁当不要）となります。
お時間が許せば2年生の保護者様はご参観ください。昨日LEBER
でも詳細を配信しています。